

琉球大学学術リポジトリ

雛の育て方

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-07-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松田, 祐一, Matsuda, Yuichi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/21068

○揚油で揚げる。豚肉です。ので中までよく火が通るよう少し時間をかけて揚げます。

5 梅花卵

十四円

○卵を黄味が真中になるようにゆでます。卵が一寸固まりかけると動かす。水にとりまします。

○皮をむいて食紅で色をつけます。

○拭巾についで箸を五本同じ距離になるよう卵にあて箸の両端を卵から少し遠ざかつた所で暫くおきます。

○形がつきまったら拭巾から取り出し余り薄くなく切ります。

5 豚肉のたつた揚

三十円

豚肉

五〇匁

醬油

大匙一杯

酒(日本酒、泡盛)

小匙一杯

生姜

少々

片栗粉

大匙二杯

○豚肉を二分位の厚みに切る

○醬油、酒、生姜、片栗粉をまぜた中に豚肉を三十分一時間浸しておく

○よくやいた油で揚げる

6 寒天寄せ

十六円

寒天二匁

水

一台二勺

みかん罐(みかんでも可)一

砂糖

七 勺

色紫

○寒天をよく洗つて分量の水につける

○火にかけよくとかし砂糖を加えます。拭巾でこすときれいに なります。

○みかん罐の液一コ分凡そ七勺位を寒天液にまぜ二寸煮ます。

○流し箱をぬらし寒天液を半分流しみかん粒を適宜に並べ少し 冷え固まりましたら残りの液を流します。この時色粉を使つ

て一つはみかん入り、一つは色寒天にしてもよいと思いま

す。

以上で実費百六拾円程度で出来上りましたが経費、家族の好み などございますので適当に飼料用頂ければ幸と存じます。この 他沼澤独得のデークニ煮メ、ウーニー、クーニー、クープイリ チーなど併用なさるといふと思ひます。従来沼澤農産では肉本 位になる傾向がございますが野菜なども充分に取合せて食物が 片寄らないよう、又食べすぎない様にして折角のお正月料理を 真に意義あるものにしたと存じます。

(新垣博子)

雛の育て方

養鶏が愈々芽を出そうとする此の時に、とり牛を迎へるので、 鶏を飼養している人々、或はこれから養鶏を始めようとする人 々と共に育雛について考えて見たい。育雛は養鶏の第一歩であ つて養鶏の成功、不成功は育雛成績の良否と関係する処大なる ものであるので、育雛は、誤りない計画の下に細心の注意を以 てやる必要がある。

以下、育雛に際し考慮すべき事項について考へてみたい。

一、品種の選択

採卵養鶏には、白色レグホン種を選ぶか、プリマスロツク 種やニューハンブシャー種のような兼用種を選ぶかと云ふこと になるが何れの品種にも各々得失があるからよく考慮の上、品 種を決定する必要がある。

先づ産卵数は、昔は白色レグホン種が多かつたのであるが、 品種改良が進んだ今日では、何れの品種が多く産むか問はれて も、簡単に回答は、むづかしい。良い血統の鶏を選べば、プリ マスロツクが白レグより多く産むこともあり得る。即ち品種に よる産卵数の差は少なくなつて来た。

次に、羽色であるが、知糞では従来、兼用種の産むかつ色

卵(赤玉)を好む傾向にあつたが、近頃は、此の傾向も少くな りつゝあるのではないかと思ふ。

経済面から見て、品種による差があるのは、餌の消費量と鶏の 体重及び肉質の良否の点である。

餌の消費量

初生雛から産卵開始迄に必要なとする餌の巨方は「農家使り」

一〇月号にも書かれてあるが、

一羽当、白レグ 一八二〇斤

兼用種 二四一六斤

即ち白レグは、兼用種に比べ、一羽の雛を作るために、餌、大

斤は少くてよいことになる。

産卵後一年間の飼料消費量

一羽当、白レグ 五六一六四斤

兼用種 六四一七二斤

即ち、一年間に白レグは餌を七十八斤少く食ふ。

鶏体重

一年鶏 白レグ標準体重 〇五三三匁

プリマスロツク 〇八〇〇匁

即ち兼用種が、二七〇匁重く、肉質もよいため、値段は高く売 れる。之を要するに、初生雛から産卵後一ケ年の間に白レグは 兼用種に比べ、餌を一三二四斤(二〇〇円一三〇円)少く 食ひ、肉鶏として売る時には巨方が軽く賣が悪いから二〇〇円 位安くなる計算になる。

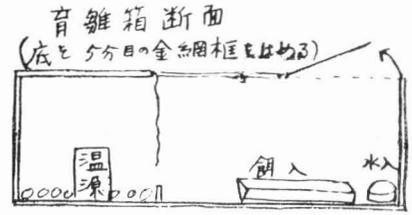
餌代と肉鶏としての販売代の差引きでは結局白レグが利益にな ると云ふことになる。

白レグが餌を少く食ふと云ふことが、養鶏家にとっては、魅力 の一つである。多くの産卵養鶏家が白レグを飼養するのも餌代 が軽減すると云ふことに原因する処が多くはないだろうか。

然し養鶏家にとつて、品種に対する嗜好と云ふこともあるから 白レグのみが、良いと決定するわけにもいかない。

二、育ひなの時期

育雛の好期と云ふのは、育雛が容易で成鶏になつてからの産



卵が多く期待できる鶏を作り得る時期と云ふ事になるが、従来春の三四月が育雛の好期とせられていた。三月孵化の白レグならば、九月には産卵揃う。そして飼ひつがよければ翌年の九月頃迄満一ケ年産み続けることになるから、一年の産卵数は多くなる。尚此の期のものが有利とする点は、卵価の高い秋が産卵開始時で産卵率多く、値段も割高に販売出来るからである。

五月六月の雛を育てると、その頃は既に汗纏では高温多湿となり、蚊の発生と共に、病気も多くなるから、細心の注意を払ふ必要がある。だから六七月雛は、よいとは云へない。養鶏家によつては、一月と三月の一回育雛することよもい考へたと云われている。

三、育ひなの設備

育雛箱の構造と大きさ

一〇〇羽か、二〇〇羽、或いはそれ以下の小規模の育雛では、普通、育雛箱を使用するが、長さ六尺、巾三尺、深さ一尺一寸一尺五寸くらいの細長い箱が適当で、此の大きさの箱で、五〇羽の雛を、三週高位迄育てることが出来る、雛が三週前後つたら箱を大きくするか、箱の数を増やすようにする。三〇一四〇位まで箱割ひにするのである。

一〇羽か二〇羽位の育雛ならリンゴ箱位の大きさでも当分は事足りる。これを半分のところまで交切り一辺は湯タンボか、温源になるものを入れ、片方を食堂とする。然しこれでは十位位で運動場が狭くなるから、箱をつぎたして広くする。

大規模育雛の場合は、傘型育雛器を用いるが、此の場合は、育雛用の室を作ることが必要である。

育雛室の広さは雛の成長も死亡率と、非常に深い関係があつて、雛が密集し過ぎると、成長がおくれ、羽がきたなくなり、病気で死ぬ率も多くなる。育雛室の広さは、普通、育雛四〇日以内は二羽に付二分の一平方尺の広さを必要とする。即ち二坪七〇羽位収容出来る四〇日を過ぎると二羽に一平方尺の広さを適当とする。之は、雛を戸外に出す場合であるが、運動場のない場合の育雛室の広さは、

- 四週以内 一羽に付〇・五平方尺(坪七〇羽)
 - 四一八週 一羽に付 一平方尺(坪三六羽)
 - 八一二週 一・五平方尺(坪四四羽)
 - 二二一六週 二・平方尺(坪一八羽)
 - 一六一二〇週 二・五平方尺(坪一四羽)
- 右の表は、米國での標準であるが、日本でも、一坪当もつと多くの雛を収容している。

四、育ひなの温度

適当の温度は、育雛の、最も大事なことのひとつである。育雛の適温は、最初の一週間は、華氏の九十五度、第二週は九〇度第三週は八十五度と、一週間毎に大体華氏五度位下げて、五十六週間で温源を切る。温度の計り方は、雛の居る処で、育雛箱の床から一寸位の高さで計る。適温の時は、夜間雛の寝ているのを見ると、熱源器を中心に、腹ばいになり、首を投げ出している状態こそ最も適切な温度のしるしである。熱源のまわりには密集したり、雛が重なり合つて寝るようでは、温度不足の証拠であり、余り熱し過ぎると熱源器を遠くはなれ、口をあけて暑そうにしている。

五、湿度

普通の場合、育雛箱内でも育雛室内でも、乾燥を計るようになる。適当な育雛の湿度は六〇一七五度である。

六、換気

湿度を保つこと空に気をとられていると、育雛器を密閉し新

鮮な空気のことを忘れ勝ちであるが空気が汚れた場合は、色々の故障が起り勝ちであるから、空気が出入りする換扉と孔は、いつでも作つて、おいて空気の流通をはからないといけない。

(未完)
(松田祐一)

追加 十二月号の自家用たぐあん漬け方中、7頁の下段の表に

「米糠二升」を加えて下さい。

あとがき

明けましておめでとうございます。輝しき新春を迎えまして、皆様の抱負も目から新しく且つ大なるものがあること、存じます。今年こそ各自の計画を充分に表現させるべく、本誌を通して一緒に勉強致し各方面の技術に磨きをかけたものです。最近の養鶏熱にこたえるため、新号の別紙附録として特に鶏の病氣一覽表を添附しましたから充分御利用下さい。

発行所 琉球大学農家政学部
 発行人 島袋 俊一
 印刷所 沖繩タイムス社